

令和5年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 的確な情報発信	4 キャリア教育の充実
		3 変化を求める		5 地域社会への貢献	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 基礎学力の向上	家庭学習を充実させ、基礎学力を定着させる。	1 1時間以上の家庭学習を行っている生徒の割合：23.7% 2 学力層の上下間の格差が広まっている。 3 ICT活用を進めているところ。 4 授業理解における肯定的評価」の割合：84.6%、朝読書・朝勉強テストで知識が身についていると感じている生徒の割合：80.7%	1 1時間の家庭学習を行っている生徒の割合：30%以上 2 学力下位層の底上げが行われている。	1 各教科が連携して家庭学習に取り組ませると同時に、生徒自ら学びを深めたいくなるような仕掛け作りを行う。 2 定期考査や各種検定の対策を行う等きめの細かい学習指導を行う。	1 1時間以上の家庭学習を行っている生徒の割合：25.1% 2 検定対策、学力下位層に対する指導、課題提出等の取組を行った。一定の成果は得られた。	C	取組は継続していくが、教科間の連携を密にする。例えば基本的な文章読解力や計算能力は、商業科で取り組もうとしているデータサイエンスに繋がる。地域貢献に繋がる汎用性のある学力を育成する。家庭学習時間は実際の具体的な学習時間を測るものとする。
	一般教養を習得させ、社会人としての必要な力を身に付けさせる。		3 全ての教員がICTを活用した授業を行っている。 4 授業理解における肯定的評価」の割合及び朝読書・朝勉強テストで知識が身についていると感じている生徒の割合：85%以上	3 Chromebookを授業や課題に積極的に活用する。そのための校内研修を充実させる。 4 探究的な学習活動を充実させる。（自ら課題を見つけ解決策を模索する取組の実施）朝読書を教職員全体の取組として行う。	3 ICT支援員の積極的な活用や定期的な校内研修会を通じて、教員の使用頻度が上がった。 (81.6%の職員が「ICTを活用できた授業を実施した」と回答。) 4 授業理解における肯定的評価の割合：85.8%、朝読書・朝勉強テストで知識が身についていると感じている生徒の割合：73.8%。 朝読書は教職員全体の取組として実施した。	B	朝勉強テストを含めた知識及び学力向上については、その効果や代替策についてICT活用を視野に入れ、研究、検討をしていく。

令和5年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 的確な情報発信	4 キャリア教育の充実
		3 変化を求める		5 地域社会への貢献	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
2 基本的生活習慣の確立	知・徳・体のバランスが良い生徒を育成する	1 基本的な生活習慣が確立していると考えている生徒及び保護者の割合：92.4%及び94.4% 2 ハイパーQUの分析を教員間で共有し、生徒理解に努めている。 3 9割以上の生徒がきちんとした着こなしを心がけている。 4 分離礼の取組や環境保全についての啓発活動を積極的に行っている。	1 基本的な生活習慣が確立していると考えている生徒及び保護者の割合：両者とも90%以上 2 引き続き生徒理解に努め、全職員で共有している。	1 生徒、保護者、教育相談をはじめとする校内組織及び関係機関の連携を強める。 2 ハイパーQUやストレスマネジメントを継続して行い、情報を共有しながらきめ細かく対応していく。	1 基本的な生活習慣が確立していると考えている生徒の割合：88.6%、保護者の割合：85.5% 2 保健室来室者の状況等を鑑みて、必要に応じた保健指導を実施し、基本的生活習慣の定着を図った。	B	生徒が心身のバランスを崩した時の、校内のサポート体制作りを進めた。これからはこのような対処策に加え、生徒が安心して生活できる学校には何が必要なのかを考え、生徒に積極的な働きかけを行っていきたい。また、保護者が生徒に対して抱く不安について把握する手だてを検討する。
	社会生活におけるルール・マナー・モラル等を遵守する習慣や規範意識を習得させる		3 9割以上の生徒がきちんとした着こなしをしている。 4 継続的に分離礼の取組や環境保全についての啓発活動を積極的に行っている。	3 服装面・生活面ともに全職員で連携し、粘り強く指導する。 4 学校生活の全ての場面で礼儀・作法について指導する。環境問題への関心が高まるよう図書館等と連携しながら新しい情報を生徒に提供する。	3 服装違反や遅刻を繰り返す生徒は一定数いるが、保護者と情報共有し粘り強い指導を目指した。 4 講習会や日常の授業を通じて啓発に務めたが、必ずしも生徒の自発的な行動にはつながっていない。	B	引き続き対話を通じて粘り強く指導していく。授業の開始時や校舎内ですれ違う際等に、積極的に生徒に声掛けをし、学校生活の全ての場面で職員全員で指導を続ける。

令和5年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 的確な情報発信	4 キャリア教育の充実
		3 変化を求める		5 地域社会への貢献	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
3 的確な情報発信	メディアを利用して、教育内容を分かりやすく伝達する。	1 授業や教育活動の様子をホームページやfacebookに掲載し、マスコミにも情報提供を行っている。 2 米南みつばち学習発表会は多くの保護者や来賓を迎え、充実した内容で実施することができた。	1 ホームページやfacebookがさらに見やすく充実したものになっている。	1 教職員がICTの知識を深めることで、より多くの教職員が情報発信を行う。	1 行事や授業の様子等、頻繁にホームページに掲載することができた。新たにInstagramによる情報発信を開始した。	A	教職員各自が知識を深め、部活動等様々な内容について発信する。生徒自身が情報発信することも検討する。
	特色ある専門高校としての人財育成に取り組む姿を発信する。		2 みつばち学習発表会の内容が深まり開かれたものになっている。	2 取組に探究的な要素を取り入れ、発表方法も工夫する。一般の方の観覧も検討していく。	2 みつばち学習発表会では、各科の取組や国際交流体験等の発表を行うことができた。	A	探究的な要素を深めていくために、低学年からスキルを学び、明確な目標や計画性を持つことができる取組とする。

令和5年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 的確な情報発信	4 キャリア教育の充実
		3 変化を求める		5 地域社会への貢献	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 キャリア教育 の充実	職業観・勤労観の育成を図り、進路の実現を目指す。	1 インターンシップをはじめ様々な進路に関する事業の実施によって、進路実現の意識は高まっている。 2 総合型選抜や学校推薦型選抜の対応を丁寧に行うことができた。 3 専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：94.6%	1 生徒の職業観・勤労観が高まり、明確な進路意識を持っている。 2 大学進学を目指す生徒がより高い意識を持って受験に挑戦している。	1 1年時から早い段階で進路意識を高めるための取組を行うと同時に各事業をより充実したものとする。 2 進学に対する生徒の積極性を引き出す体制作りと情報提供を行う。	1 幅広い視野で主体的な進路検討ができるようにするため、学年全体で大学等見学、企業見学及び対話型の企業人との座談会をするなどの充実を図った。 2 放課後に、生徒保護者を対象とした大学説明会の開催や、本校に適した進学情報を提供した。	A	専門性を活かしたキャリアを形成するため、体系的な取組となる年間計画を再構築し、各種事業の充実を図る。(例 意識の高い生徒に対する追加のインターンシップ)また、より高い意識を持って受験に挑戦できるようにするため、総合型選抜や学校推薦型選抜の対応に関する職員研修等を行う。
	専門的な学習の取組を深め、より高度な専門資格を取得させる。		3 専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：90%以上	3 専門的科目の時間数を確保するための補充授業を実施する。(調理コース)また、高度な資格に挑戦しようとする生徒を増やし、系統的な指導をおこなう。さらに、STEAM教育に繋がるような教育活動を計画していく。	3 専門的な学習を深めることができたと考える生徒の割合：92.5%。資格取得に向けた放課後補修や講習会を計画的に実施した。(商業・家庭・英語科等)	B	新教育課程完成年度を迎えるにあたり、新たな学習指導要領に沿った教育法を模索する。 より難易度の高い資格の取得へ向けて、生徒への動機づけを行う。

令和5年 度 自 己 評 価 表

鳥取県立米子南学校

中長期目標 (学校ビジョン)	大胆な挑戦	1 意欲を育てる	今年度の 重点目標	1 基礎学力の向上	2 基本的生活習慣の確立
		2 成長を支える		3 的確な情報発信	4 キャリア教育の充実
		3 変化を求める		5 地域社会への貢献	6 業務改善の取組

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	評価の具体項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
5 地域社会への 貢献	地域活力の導入や地域活性化の推進を行う。	1 課題研究において地域課題の解決法を模索し、実践活動に取り組むことでふさとへの愛着が生まれた。	1 生徒が探究心を持って主体的に課題研究に取り組んでいる。	1 生徒が主体性を持って課題研究に取り組み仕掛けづくりを行い、地域へ積極的に出向いていく。	1 課題研究において、地域連携や地域貢献に取り組んだグループが多く見られた。	A	生徒が研究・開発したものを商品化する等、地域との連携をさらに深めていく。
	学校や地域で主体的に行動でき、地域社会の発展を進める人財を育成する。	2 家庭クラブが中心となり、中海アダプトプログラムや米フェスタ、米子空港での販売実習に取り組んだ。 3 社会貢献を推進しようとしている生徒の割合：82.5%	2 販売実習等に主体的に取り組むことで、生徒が地域に愛着をいただき、地域の方々も本校を応援している。 3 社会貢献を推進しようとしている生徒の割合：85%以上	2 地域交流の拠点となる施設との交流や連携を深め、地域に密着した活動を行う。また、eスポーツ活動を通じて高齢者施設等とのつながりを深める。 3 生徒が達成感を感じることができ活動にすることで、生徒の積極性を高めていく。	2 eスポーツ活動において、年間22回の外部との連携による活動を行った。 3 社会貢献を推進しようとしている生徒の割合：85% コロナウイルス感染症5類移行を受け、地域の保育園・小学校・高齢者施設などとの交流が復活し、販売実習やボランティアなども以前の様に活発に実施できるようになった。	A	ICT等を活用しながら地域のニーズを把握し、新たな形で地域貢献を模索していく。
6 業務改善の取組	ワークライフバランスを保つことを推進する。	1 時間外業務が年間360時間を超える職員の割合：5.7%（昨年度より減少） 2 一部教員に長時間勤務が偏る傾向がある。	1 各個人の時間外業務が月30時間以内（最大45時間）以内、年360時間以内	1 業務の効率化を図り、教員間で分担することで科内及び分掌内で協働・共有化を図る。	1 時間外業務が月平均30時間を超える職員の割合：15%（12月末現在）	B	教員もICTを活用して、業務の共有、協働を図る。
	長時間勤務を解消する。		2 「部活動に係る活動方針」沿った部活動が行われている。	2 休日の部活動においては、できる限り顧問間で分担し、指導するようにする。	2 外部指導者等を活用しながら、顧問間で連携し一人当たりの部活動指導時間を軽減した。	B	引き続き協力して、生徒の安全を最大限担保しながら指導を行っていく。

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し
[100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]